

別紙 1

【薬効分類】 4 2 9 その他の腫瘍用薬

【医薬品名】 ツカチニブ エタノール付加物

【措置内容】 以下のように使用上の注意を改めること。

下線は変更箇所

現行	改訂案
2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） 次の薬剤を投与中の患者：ベネトクラクス（慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）、再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫の用量漸増期）、アナモレリン塩酸塩、ボクロスポリン、イバブラジン塩酸塩、キニジン硫酸塩水和物、チカグレロル、マバカムテン、リバーロキサバン、アゼルニジピン、オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン、エプレレノン、エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、シンバスタチン、タダラフィル（アドシルカ）、マシテンタン・タダラフィル、フィネレノン、ロミタピドメシル酸塩、スボレキサント、ダリドレキサント塩酸塩、トリアゾラム、ブロナンセリン、ボルノレキサント水和物、ルラシドン塩酸塩、バルデナフィル塩酸塩水和物、メチルエルゴメトリンマレイン酸塩、ロナファルニブ、イブルチニブ	2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） 次の薬剤を投与中の患者：ベネトクラクス（慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）、再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫の用量漸増期）、アナモレリン塩酸塩、ボクロスポリン、イバブラジン塩酸塩、キニジン硫酸塩水和物、チカグレロル、マバカムテン、リバーロキサバン、アゼルニジピン、オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン、エプレレノン、エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、シンバスタチン、タダラフィル（アドシルカ）、マシテンタン・タダラフィル、フィネレノン、ロミタピドメシル酸塩、スボレキサント、ダリドレキサント塩酸塩、トリアゾラム、ブロナンセリン、ボルノレキサント水和物、ルラシドン塩酸塩、バルデナフィル塩酸塩水和物、メチルエルゴメトリンマレイン酸塩、ロナファルニブ、イブルチニブ、<u>パロバロテン</u>

10. 相互作用

10.1 併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アナモレリン塩酸塩 ボクロスポリン イバブラジン塩酸塩 キニジン硫酸塩水和物 チカグレロル マバカムテン アゼルニジピン オルメサルタン メドキシ ミル・アゼルニジピン エプレレノン エルゴタミン酒石酸塩・無 水カフェイン・イソプロピ ルアンチピリン シンバスタチン タダラフィル(アドシルカ) マシテンタン・タダラフィ ル フィネレノン ロミタピドメシル酸塩 スボレキサント	これらの薬剤の副作用が増強されるおそれがある。	本剤がCYP3Aの代謝活性を強く阻害することにより、これらの薬剤の血中濃度が上昇する可能性がある。

10. 相互作用

10.1 併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アナモレリン塩酸塩 ボクロスポリン イバブラジン塩酸塩 キニジン硫酸塩水和物 チカグレロル マバカムテン アゼルニジピン オルメサルタン メドキシ ミル・アゼルニジピン エプレレノン エルゴタミン酒石酸塩・無 水カフェイン・イソプロピ ルアンチピリン シンバスタチン タダラフィル(アドシルカ) マシテンタン・タダラフィ ル フィネレノン ロミタピドメシル酸塩 スボレキサント	これらの薬剤の副作用が増強されるおそれがある。	本剤がCYP3Aの代謝活性を強く阻害することにより、これらの薬剤の血中濃度が上昇する可能性がある。

ダリドレキサント塩酸塩 トリアゾラム ブロナンセリン ボルノレキサント水和物 ルラシドン塩酸塩 バルデナフィル塩酸塩水和物 メチルエルゴメトリンマレイン酸塩 ロナファルニブ イブルチニブ			ダリドレキサント塩酸塩 トリアゾラム ブロナンセリン ボルノレキサント水和物 ルラシドン塩酸塩 バルデナフィル塩酸塩水和物 メチルエルゴメトリンマレイン酸塩 ロナファルニブ イブルチニブ <u>パロバロテン</u>		